

最先端の診療で最良の視機能を

眼科領域の全体をカバーしつつ、特に網膜硝子体疾患等の専門外来を設け、経験豊富な医師が診療を行います。従来の外科的治療に加えて、近年進歩の著しい内科的治療の両面から、個々の病状に最適な治療を行っています。

診療体制

眼科スタッフ13人を中心に10診体制で外来診察。初診の後は専門外来にて各疾患専門の医師による診断、治療を他科と連携しながら行います。また、必要に応じて、入院の上、手術加療や光線力学療法などを施行しています。

対象疾患

加齢黄斑変性・近視性脈絡膜新生血管・黄斑上膜・黄斑円孔など黄斑疾患、緑内障、糖尿病網膜症、網膜色素変性症、ぶどう膜炎、網膜循環疾患、神経眼科疾患、眼窩腫瘍、未熟児網膜症、斜視弱視、網膜剥離、白内障など。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

年間約1,400件の手術、特に難症例の多い硝子体手術約400件、緑内障手術約150件を行っています。また、抗VEGF療法などの硝子体注射を約1,000件、光線力学療法約200件と外科的、内科的両面からの治療を行っています。

高度医療の取り組み・研究

① bevacizumab硝子体内注射

脈絡膜新生血管・網膜循環疾患・糖尿病網膜症に対して、bevacizumab硝子体内注射を倫理委員会の承認を得て施行し、高い治療効果を得ています。

② 光線力学療法

加齢黄斑変性症に対して750件以上行っていますが、効果が期待しにくい患者さんにはトリアムシノロンとの併用療法も行っています。



すべての女性に洗練された医療を

婦人科悪性腫瘍に対して、正確な診断と高度な技術により、個々の症例に合わせた最適の癌治療を実施。また高度な専門性を要するハイリスク妊娠を数多く扱う一方、症例に応じた段階的な不妊治療を行い良好な成績を得ています。

診療体制

常勤医師14名、医員・修練医15名で、24時間体制の診療を行っています。病理診断部、放射線診断科、放射線治療科、小児科などと緊密に連携して、診断、治療、新生児管理に万全を期しています。

対象疾患

子宮頸癌・体癌、卵巣癌などの悪性腫瘍、子宮筋腫、子宮内膜症などの良性腫瘍、子宮脱、月経異常、更年期障害など(婦人科)。正常妊娠、内科疾患合併妊娠、常位胎盤早期剥離などの産科救急疾患、胎児疾患など(産科)。不妊症、不育症(生殖医療部門)。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

年間100例の悪性腫瘍手術療法、癌化学療法、放射線治療などの集学的治療を行っています。年間350例の分娩、半数以上はハイリスク妊娠・分娩です。難治性不妊症を対象に約100例の体外受精胚移植法を行っています。

高度医療の取り組み・研究

- ① 婦人科癌治療における癌免疫療法に関する研究
再発癌など、抵抗性の難治性癌に対する治療法として、免疫細胞を用いた新しい治療法の開発を目指して研究しています。
- ② 胎児環境の生活習慣病発症への影響の検討
胎内で发育不全、低栄養出生児の生活習慣病(成長後)に対する発症機序や予防対策について研究しています。
- ③ 顕微授精や胚盤胞移植を用いた高度補助生殖医療
凍結融解胚移植、顕微授精、胚盤胞移植などにより、男性因子や難治性不妊症を対象に妊娠率24.2%と良好な成績を得ています。

